

# 図書だより

2022年6月

だいでうしょうがっこう としよかん  
大道小学校 図書館

## きれいだな、<sup>あめ</sup>雨にぬれた<sup>くさばな</sup>草花

つゆ はい あめ ひ おお  
梅雨に入り、雨の日が多くてがっかりしていませんか？ちょっと外をみてみま  
しょう。<sup>あめ</sup>雨にぬれた<sup>くさばな</sup>草花はとてもきれいですね。

「あの花の名前はなんだろう？」と思ったら、花の<sup>はな</sup>図鑑<sup>ずかん</sup>で調べてみませんか。

## <sup>ほりあきこ</sup>堀明子さんの「詩」を紹介します

<sup>こんねんど</sup>今年度も<sup>としよ</sup>図書だよりで<sup>ほりあきこ</sup>堀明子さんの<sup>すてき</sup>素敵な詩<sup>し</sup>を紹介<sup>しょうかい</sup>していきます。

<sup>みな</sup>皆さんは<sup>としよかん</sup>図書館に<sup>ほりあきこ</sup>堀明子さんの詩のコーナーがあることを知っていますか？

<sup>あきこ</sup>明子さんはみなさんと同じ<sup>おな</sup>大道小学校<sup>だいでうしょうがっこう</sup>で<sup>まな</sup>学び、その頃<sup>ころ</sup>に<sup>たくさん</sup>沢山の詩<sup>し</sup>を書かれました。<sup>きせつごと</sup>季節毎に<sup>てんじ</sup>展示が<sup>こうかん</sup>交換されています。<sup>うつく</sup>美しい写真<sup>しやしん</sup>と一緒に、<sup>いっしょ</sup>明子さんの詩<sup>あきこ</sup>の世界<sup>せかい</sup>を楽しんでください。「<sup>あめ</sup>雨の日<sup>ひ</sup>の<sup>は</sup>葉<sup>は</sup>っぱ」の<sup>すてき</sup>素敵な詩<sup>し</sup>を紹介<sup>しょうかい</sup>します。

雨の日<sup>あめ</sup>の葉<sup>は</sup>っぱ

水玉<sup>みずたま</sup>ころりん

ぬれない

はぎの葉<sup>は</sup>っぱ

きくの葉<sup>は</sup>っぱ

ぬれても<sup>げんき</sup>元気ね

ぼけの葉<sup>は</sup>っぱ

ぬれていて

ぐったり


もみの葉<sup>は</sup>っぱ

とげとげ葉<sup>は</sup>っぱ

ちいさい水玉<sup>みずたま</sup>

たくさん ついてる

「四季<sup>しき</sup>の色<sup>いろ</sup>・堀<sup>ほり</sup>明子<sup>あきこ</sup>詩集<sup>しじゅう</sup>」より



# かだいとしょ とど 課題図書が届きました

だい かいせいしょうねんどくしょかんそうぶんぜんこく かだいとしょ き  
第68回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書が決まりました。

ていがくねん ぶ ねんせい  
【低学年の部(1・2年生)】



## つくしちゃんとおねえちゃん

いとうみく/作 丹地陽子/絵 (福音館書店)

あたま がよくてなんだってできるおねえちゃんは、あたしの自慢です。

おねえちゃんは歩くとき、少し右足をひきずります——。

いもうと してん にちじょう へん ものがたり  
妹の視点で日常をつづった5編の物語。

## ばあばにえがおをとどけてあげる

コーリン・アーヴェリス/文 イザベル・フォラス/絵(評論社)

だいす えがお さが  
「大好きなばあばを笑顔にしたい！」と、まちに「よろこび」を探しにでかけます。

おばあちゃんとまごむすめ  
おばあちゃんと孫娘のやさしくあたたかな物語。



## すうがくでせかいをみるの

ミゲル・タンコ/作 (ほるぷ出版)

うちのかぞくには、それぞれすきなことがある。すきなことがあるっていいな…。すきなことは、みんなちがう。

「すき」を通して、世界の見方をみつける絵本。



## おすしやさんにいらっしやい！:生きものが食べものになるまで

おかだだいすけ/文 遠藤宏/写真(岩崎書店)

つ あ さかな すし み しゃしん  
釣り上げた魚をさばき、寿司にするまでを見せる写真

えほん さかな とくちょう ぶ い はたら かいせつ  
絵本。魚の特徴や部位の働きも解説。「キンメダイ」

「アナゴ」「イカ」の全3章。

さいご すし おい  
最後にお寿司を美味しくいただきます。



ちゅうがくねん ぶ こうがくねん ぶ うら  
【中学年の部】【高学年の部)】は裏へ



【<sup>ちゅうがくねん</sup>中学年の部(3・4年生)<sup>ぶ</sup>】



<sup>ずかん</sup>みんなのためいき図鑑

村上しいこ/作 中田いくみ/絵 (童心社)

生きてると、ためいきをつきたくなることがいっぱい。ともだちとケンカしてしまったり、<sup>おや</sup>親の<sup>きたい</sup>期待にこたえられなかったり。でもね、「ふうっ」てためいきをついたら<sup>まえ</sup>前をむいて<sup>ある</sup>歩きだせるかも。<sup>ゆうき</sup>勇気をもらえる<sup>ものがたり</sup>物語。

チョコレートタッチ

パトリック・スकिन・キャトリング/作 佐藤淑子/訳(文研出版)

ジョンは、チョコレートが大好きな<sup>だいす</sup>男の子。ある日、ひろった<sup>おとこ</sup>銀貨で買ったチョコレートを食べました。すると、口に入れた<sup>こ</sup>歯みがき粉や飲んだジュースがチョコレートになってしまいました。何が<sup>なに</sup>おこったのでしょうか？



<sup>ほん</sup>111本の<sup>き</sup>木

リナ・シン/文 マリアンヌ・フェラー/絵 (光村教育図書)

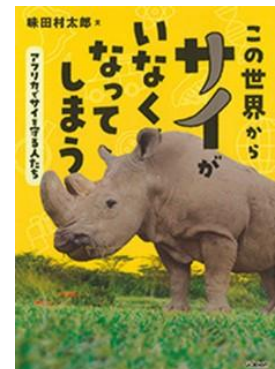
女児の誕生を 111本の木を植えて祝う村があります。ジェンダー<sup>じょじ</sup>平等を<sup>たんじょう</sup>提唱するこの<sup>ほん</sup>エコロジー<sup>き</sup>活動により、村は<sup>う</sup>豊かな<sup>いわ</sup>自然を取り戻しました。女児に<sup>むら</sup>学ぶ<sup>むら</sup>機会を与え、<sup>ゆた</sup>児童婚<sup>あ</sup>から守るために<sup>あ</sup>行動した、ある<sup>あ</sup>村長を描く<sup>あ</sup>実話。

この<sup>せかい</sup>世界からサイがいなくなってしまう:アフリカでサイを守る<sup>まも</sup>人<sup>ひと</sup>たち

味田村太郎/文 (学研プラス)

サイの<sup>つの</sup>角がねらわれている——いったいなぜ？

アフリカで、<sup>こ</sup>子どものサイの<sup>ほ</sup>保護や、<sup>ぎ</sup>傷ついたサイの<sup>ちりょう</sup>治療を<sup>エヌエイチケー</sup>NHKの<sup>きしゃ</sup>記者が<sup>しゅざい</sup>取材。いま、<sup>ちきゅうじょう</sup>地球上で<sup>ほんとう</sup>本当に<sup>お</sup>起きていることを<sup>し</sup>知る1冊です。サイの<sup>せい</sup>生態や<sup>げんち</sup>現地の<sup>しゃしん</sup>写真も<sup>ほうふ</sup>豊富に載っています。



こうがくねん ぶ ねんせい  
【高学年の部(5・6年生)】



りんごの木を植えて

大谷美和子/作 白石ゆか/絵 (ポプラ社)

みずほは小学五年生。大好きな祖父にがんの再発がわかったが、祖父は「積極的な治療」は行わないという。それって、どういうこと? 「人間が生きること」そして「死ぬということ」を考える、心あたたまる家族の物語。

かぜ かみおく  
風の神送れよ

熊谷千世子/作 くまおり純/絵 (小峰書店)

疫病神を祓い、地区境まで送り出すまでのすべてが子どもたちの手にまかされるコト八日行事。はじめは行事を面倒に感じていた主人公が、行事に関わる人々の思いに触れることで変わっていきます。子どもたちが無病を願う伝統行事と懸命に向き合う姿を描く成長の物語。



よわむし  
ぼくの弱虫をなおすには

K・L・ゴースト/作 久保陽子/訳 (徳間書店)

5年生になるのがこわいというゲイブリエルのために、親友のフリータは、強くなるための作戦を思いつく。ところが、二人で取り組むうちに、もっと大きな問題が立ち上がり…。子どもたちの友情と成長を描く、心にひびく物語。

す や ちようせん  
捨てないパン屋の挑戦:しあわせのレシピ

井出留美/著 (あかね書房)

自然に囲まれて育ち、環境保護に命をかける田村さん。親から引き継いだパン屋で、大量の廃棄・食品ロスに悩みます。世界を旅してついに見つけた「一個も捨てない方法」は、みんなが幸せになるレシピでした。

